



鷺の宮卓話にかえて

## 認定NPO法人格取得について

### ～経過報告とお詫び～

研究所理事長 太田敬雄

昨年度来、認定NPO法人格取得のために多くの皆様にご協力いただいて参りました。二年間、3,000円以上のご寄付を平均100名以上の方から受けることが必要でした。2010年度は72名の方から3,000円以上のご寄付(364,000円)をいただいていたので、2011年度には130名以上の方のご協力が必要でした。

その2011年度、最終的に176名の方々から総額724,000円の貴重なご寄付を頂戴することが出来ました。(注：両年度共3,000円未満のご寄付・会費を含む)昨年度一年間の皆様のご寄付によるお支えは言葉にするのが難しいほど心強いものでした。本当に有難うございました。

この結果を踏まえ、感謝しつつ認定取得の準備に取り掛かりましたが、結果的に認定申請が出来ませんでした。ご協力下さった皆様との約束を守れなかった事を重く受け止め、皆様に心からお詫び申し上げます。

なぜそのような事になったのか、少し説明をさせていただきます。一昨年度から、認定申請のため何度か説明会に行き、また確認・報告もしてきたつもりでした。しかし、いよいよ申請を始める段階になって突然、当研究所には申請の資格が無いと申し渡されました。その理由は毎年県に提出を義務付けられている活動報告書の提出が期限を過ぎていたからとのことでした。「他県との協議した結果報告書の提出期日が守られていないケースは申請の資格なし」と決められたのは申請受け付けが始まった後、夏頃と聞いております。私は突然の決定に大変困惑したのですが、当研究所の監事には「提出期限が守られていなかったことの方がはるかに信じられないミス」と言われ、理事長としての常識の無さを思い知らされた次第です。今年書類提出が遅れたわけですから、これから二年間、を経てからでなければ申請する

資格がないとのことでした。

さらに、認定取得後も毎年3,000円x100人のご寄付を維持できないと、認定機関の切れる5年後の認定再更新は無いこと、賛助会員の会費は寄付扱い出来るけれども正会員の会費は寄付に参入出来ないことも明らかになりました。(注：現在年会費をお支払い下さっている皆様は「正会員」です。)

これらの結果を受けて、臨時理事会を二回開催し、その間にもメールにて役員の皆様と対応について認定取得について根本から協議を進めて参りました。その結果、次のような判断をするに至りました。

まず第一に、昨年度「今回ご協力をいただければ認定は取れる」と誤った説明でご寄付をお願いした皆様には、心からお詫び申し上げますと共に、頂戴したご寄付は全額返金させていただきます。もちろんこれだけでは御厚意へのお返しには到底足りませんが、誠実にありのままをご報告し、ご協力下さった皆様に深くお詫びを申し上げますことが、今の私共のできる最低限のことであり、最優先事項です。大勢の皆様の心からのご支援、本当に有り難かったです。然し結果的に大変なご迷惑をおかけしてしまいました。重ねて、心よりお詫び申し上げます。

そして第二に、認定NPO法人格取得については今後とも努力を続け、今年度と来年度の結果をもって認定NPOとなるように準備を続けていくことを決めました。ただし、認定を取るために特別な事をするのではなく、パブリックサポートを得られるようなNPOとしての活動を今後も誠実にしていきたいと考えています。

つきましては、ご協力いただいた皆様には先ずご寄付いただいた分(年会費は除く)をお返しさせていただきます。そこで、誠に恐縮ですが皆様の口座番号(銀行または郵貯銀行)と口座名義をメールかファックスあるいはお手紙(封書)にてご連絡ください。

メールは [mtharunac@xp.wind.jp](mailto:mtharunac@xp.wind.jp) ファックスは027-382-6393です。ご連絡があり次第必ず返金させていただきます。

なお、誠に勝手ではありますが、今年度末までにご返却先をご連絡いただけない場合は、状況をご理解いただいたうえで改めてご寄付(2面に続く)

(1面より続く) 下さったものとして、手続き上は一度お返しした上で、今年度に新たに認定に向けてご寄付いただいたご寄付として対応させていただきます。

理事長の非常識、不慣れゆえ皆様にご迷惑をおかけしておりますことについて、大変残念な結果となりましたことを反省して重ねてお詫び申し上げます、同時にこの失態をバネにこれからの

活動をぶれることなく続けて参る覚悟で居ります。これまでと同様に、これからも「世界の人々が心を開き、お互いを受け入れあって共に生きる平和な地球社会を構築する活動」に取り組み続けることをお約束します。今後とも国際比較文化研究所の取り組みをご理解いただき、お支え下さいますよう、またその活動に叱咤激励下さいますよう心からお願い申し上げます。

## マラン便り

ブラウィジャヤ大学日本語教師 村上園子<sup>1</sup>

7月下旬、私は、再びインドネシアへ向かう為に日本を経ちました。それからあっという間に3カ月が過ぎました。現在、私は、研究所からの派遣でインドネシア共和国東ジャワ州の、マランという都市にあるブラウィジャヤ大学<sup>2</sup>で日本語を教えています。

インドネシアは日本語の学習者が、世界で3番目に多い国です。私が派遣されているブラウィジャヤ大学でも、学生数が年々増えています。そんな日本語熱が熱い国で、再度日本語を教えられる<sup>3</sup>ことを何より嬉しく思います。

インドネシアの学校は、だいたい9月から新しい学期が始まります。先日中間テストが終わり、また通常の授業に戻りました。私は現在、3、4年生の授業を担当していますが、みんな日本語が「大好き！」と言いながら、日々頑張っています。日本語に興味を持ったきっかけは、人それぞれですが、多くの学生がやはり日本のアニメや漫画、ドラマを好きになったのが日本語を勉強するきっかけと言っています。また、将来日本へ留学したい、日本の会社で働きたいという学生も多く、私も学生達からいろいろな面で刺激をもらっています。今、学生達は、12月に行われる日本語能力試験に向けて、必死に勉強しています。

マランは、ジャカルタやバリ島<sup>4</sup>のように、日本人が多く住んでいる地域ではありません。学生達が、普段の生活で日本語に触れられる機会は限られているように思います。このような環境の中で、私自身が生の教材として学生達の日本語上達に少しでも役に立てればと思っています。また、来年3月に国際比較文化研究所の「多文化交流 in マラン2013」<sup>5</sup>が予定されています。ここでも、学生たちが同世代の日本人と日本語で交流できることを心から楽しみにしています。みなさんも、インドネシアを訪問する機会がございましたら、是非マランへ足を運んでいただければと思います。

### 編集者注

<sup>1</sup>村上園子先生：Brawijaya 大学との提携後、大学の要請を受けて研究所が送り出した日本語の先生。

<sup>2</sup>ブラウィジャヤ大学：現在、日本語学科では200名ほどの学生が日本語を専攻しています。

<sup>3</sup>再度日本語を教えられる：村上先生の前職はバリ島での日本語教師でした。日本語学校で教えた他に警察で日本からの観光客の対応をする警察官にも日本語を教えておられました。

<sup>4</sup>ジャカルタやバリ島：この2か所がインドネシアのすべてかと思うほど、ほとんどの日本人はこの二か所に集中しています。

<sup>5</sup>多文化交流 in マラン：2013年3月5日から7泊8日の予定で実施されます。

## 多文化交流について

所長 太田 敬雄

当研究所が主催する「多文化交流」には一つの大きな特徴があります。それは日本で実施される「留学生との多文化交流」はもちろん、海外で実施する「多文化交流」もすべて日本語を使用言語としている事です。海外での受け入れ側のスタッフも参加者もすべて日本語を専攻する学生、日本語を専攻してきた人たちです。

ややもすると英語が苦手な海外に目を向けようとしない日本人も言葉を気にしないで参加できるというメリットもありますが、実はそれよりもはるかに大きな使命感をもって「日本語での交流」プログラムは企画されました。

海外の大学で日本語を専攻する若者たち、日本に留学に来ている若者たち：将来彼らは間違いなく日本と彼らの出身国の橋渡し役として活躍していく若者です。通訳・日本企業での就職・日本語教師として次の世代を育てるなどなど、彼らは将来多岐にわたる分野で活躍していくことでしょう。その若者たちに、日本語での交流を通して、同世代の日本人と友達になり、さらには日本を好きになって貰う。そのことが

明日の相互理解に基づいた平和な地球社会を育てるベースとなる。その確信をもってこのプログラムを実施しています。「お互いを好きになること。」このことを無視して信頼関係は育てられません。このつながり無しには本気で日本語を学ぶ気力も途絶えがちになります。特に先生だけではなく、一般の日本人に接する機会の少ない所では、学習意欲ももう一つ「本気度」に欠けることになります。

今年、日本の文部科学省の奨学金を受けてインドネシアから日本に留学に来た学生は17名だったと聞いています。その内の7名はブラウイジャヤ大学の学生でした。世界の首都以外の地方にある大学から、これだけ多くの奨学生を出しているところは少ないのではないのでしょうか。私はその背景に毎年継続してきた「多文化交流」の効果があると感じています。

日本からの参加者についても同じことが言えます。参加者は一人もインドネシア語専攻・韓国語専攻ではありませんでした。英語も苦手という学生の方が多いでしょう。けれども彼らは確実に視野を広げ、世界をその視野に置いた世界観、人生観を持てるようになっていきます。明日の地球社会の健全な発展のために、これからも世界の各地に「多文化交流」の輪を広げていきたいものです。

ここに前回載せられなかったスタッフ・

リーダー、清水理沙さんの感想と、マランからの五人の招聘生の感想を掲載します。一部の省略を除いて招聘生の感想は原文のまま掲載します。

## 多文化交流について

多文化交流 in ぐんま 企画責任者  
群馬県立女子大学 3年 清水 理沙

2011年の夏に初めて参加した多文化交流ですが、マランを含めると4回参加し、すっかり常連になっていました。多文化ぐんまでは2回スタッフを務めました。前回のニューズレターの参加者の感想に、たくさん心にしみる言葉があり、嬉しい限りです。

なぜ多文化がこれほど思い出深いものになるのか、それは「自然体」で交流できているからではないのでしょうか。参加する前は、国籍・宗教・言語・年齢・価値観などの壁が不安要素としてあるかもしれません。しかし「交流がしたい」という共通の思いが互いに伝わり、相手を受け入れられるのだと思います。交流会が終わるころには、初めは意識していた壁が自然となくなり、皆平等な「友達」という関係になっているでしょう。

また、多くの「気付き」に出会い、それらとどう向き合っていくか考えるきっかけになる場所でもあります。多国籍、異文化間での共同生活では、様々な違いを感じるはずですが、私はその「違い」に気付くことが大切だと感じました。「違い」は決してネガティブな表現ではなく、自分の軸を作るものであり、相手を尊重するために必要なものです。素晴らしい仲間に出会い、その繋がりを大切にしていきたいと思うからこそ、「違い」と向き合えるのだと思います。

「今日が出発点」と最終日にいつも太田先生がおっしゃいます。その場限りで終わらない多文化を象徴する言葉です。参加者それぞれが感じた思いを大切に、さらに別の誰かに伝え、多文化交流の輪が日本中、世界中で広がって欲しいと思います。平和な社会への願いを込めて。

## 群馬招へいプログラム2012年の感想

ハルメ

15日間に日本で生活しました。本当にすごい経験だと思います。日本とインドネシアは全然違います。最初にびっくりしたのは設備のことです。交通でも道路でもトイレまでも設備がいいです。不自由な人のための設備もあるし、インドネシアに絶対ない設備もあるし、すべてきれいです。不自由な人たちのための設備はたとえば、バス/電車の中・トイレで、優先席があり、不自由な人・老人・妊娠している人のためです。それから、空港から群馬に行ったとき、道路に沿って、各500メートル/1キロで、非常電話があります。たぶんあそこはフリーウェイだと思います。インドネシアではないです。その設備はすべてきれいです。壊れたものも見たことがありません。

次は文化のことです。日本は先進国ですが、文化を守っています。すごい機械・テクノロジーがあり、伝統的な文化もあります。最初に自動販売機で買い物するのは招へいプログラムのとき、群馬です。それから、知らなかったシャワーコインも使ってしまいました。100円で3分にシャワーし、本当に面白かったです。普通はコインランドリーが知っています。いろいろなテクノロジーのすごさを感じて使っていました。

日本っぽいこともまだまだたくさんあります。洋室がある家の中でも和室もまだあります。日本人は伝統的な習慣を守っています。学校で伝統的な踊りも勉強し、あっちこっちで芸術のコースところ（こけし・踊り・だるま・書道・茶道など）があるし、神社もお寺も緑化も温泉もきれいでよく維持されています。招へいプログラムのとき、北海道の踊りを踊りました。面白かったです。京都にいたときも、踊りを習いました。マコ先生からのおごりでした。難しかったです。本当に楽しかったです。いい経験になりました。

それから、一番大好きなことは食べ物です。食べることが大好きです。まだ食べなかった食べ物がたくさんあると思います（4ページへ）

(ハルメ：3 p から) が、日本の食べ物は大体好きです。が、納豆、とろろは少し食べるなら、大丈夫ですが、多く食べたらダメでした。やっぱり口に合いません。(略) ホームステイのお母さんの手料理もおいしいです。

招へいプログラムの中で、いろいろな地方から来た人たちが集まり、いろいろな話をし、いろいろな話を聞き、いろいろなことをやり、楽しかったです。日本からだけじゃなく、中国も台湾もアメリカもフィリピンのひとが来ました。そのとき、みんなが日本語で話しました。本当にすごい雰囲気でした。日本の文化だけじゃなく、自分の国の紹介できますし、いろいろな国のこともわかることとなります。

実は私は話すことが苦手です。いつも大人っぽいといわれます。それに、どうやってあるグループに入るかがわかりません。(略)

招へいのプログラム時、他の人を見て習いました。どうしてあの人はそのように話しますか。どうしてそんな簡単にあるグループに入りますか。何を話せばいいですか。答えはただひとつ、私は考えすぎです。集まって話すのは普通です。人間はそうですから。ある集まったグループに入って話しました。いつも思っていたと違ってそんなに難しくなかったです。グループに入ると、いつも話がありますから、心配はないです。しかし、新しい知り合い／大勢の人の前に話したら、緊張しやすく、話せません。(略) 恥ずかしいです。

2週間に優しい人にいっぱい会いました。太田先生、れいこさん、ちかげせん、招へいのみなさん、ホストファミリーのみなさん、ゆかさん、こうめいさん、荒井先生、あすかさんとご主人、岩本さん、他のみなさんに会ってよかったです。いつかわかりませんが、また日本に行きます。

### ファリダー

初めての海外は多文化交流招聘で日本へ本当に良かったです。想像以上で日本は本当に素晴らしい国でした。「日本はどうだった？」という質問がでてきたら、「凄かった、帰りたくなかった」といつも答えてたんです。

日本とインドネシアを比べたら、(略) それぞれはいいところもありますし、悪いところもあります。でも、日本のいいところは多すぎるのでくらべたくありません！

日本で一番気になるのは日本の「サービス」と設備です。サービスは人と人のサービスだけでなく、駅でのサービスとか交通手段、電車・バスのサービス、お手洗いなどです。例えば、女性向けの電車、優先席、切符売り場と駅での地) 図です。実は優先席はインドネシアにもありますが、日本には多くて人々は大体ルール守ってます。それをビックリしました。それで、電車とかバス何かをを待ってる時は日本人はきれいに並んでました。エスカレーターにもきれいに並んで歩いてました。道路も素晴ら(右上へ)

(ファリダー：左下より) しかかったです。小さい道にも交差点とかにいつも「止まれ」という注意が書いていて、それも大体の日本人はまもってました。それもビックリして感動しました。なんでもきれいにしたら、問題とかなくて、快適な生活ができます。(略)

日本には外国人としてはいいサービスのおかげで生活しかたは安全、便利、生活しやすくなりました。迷子になってもどこでも地図が張ってますから安心です。人のサービスも、日本人はいつも笑顔で優しく、詳しく、暖かく説明してあげてました。心は落ち浮くになりました。問題とかはなくなりました。お互いに笑顔で優しくすれば、世界はあたたかくなります。日本は景色だけじゃなく、全部きれいでした。日本に着いたばかりの時は本当にドキドキ、ワクワク、緊張してたまらなかつたです。初めての留学生の友達と会ったときにも、とてもびっくりしました。留学生たちは、外国人なのに、日本語が上手すぎてまるで日本人みたいです。でも先生達とみんなの友達のおかげでその2週間は本当に楽しくて、うまく過ごせました。素晴らしい2週間で、一緒忘れられたくないです。本当に感謝してます！

日本へ行ったら、日本人の普通の生活、一日中の生活を感じてみたい！それをやりました。ホームステイの時にはびっくりしてたことがたくさんあって、「へーなるほど」「あー！本当だ」という文をよく言ってしまったんです。日本人の食事仕方みると「あー、なるほど」とか「日本人の長生はここからか」とかいろいろ分かってもらいました。日本事情は授業とインターネットしか学んでなかったの、ウキウキしながら、見てみました。

若者生活も少し分かりました。アパートで一人暮らしとか、学校とバイトとの生活とかを少し見ました。インドネシアとの若者の生活とは同じけどちょっと違うところもあって、大体の日本の若者はアルバイトしてます。学校だけじゃなく、バイトとかいろんな活動もしてます。それを分かって「いいね、私もそうしたい」という意思がまた出てきました。(略)

ずっとその前の夢は将来、日本とインドネシアとのカケハシになりたいです。(P5 へ)



京都では荒井先生がサポート。大阪では会員の岩本さんと食事(写真)

(ファリダー：4pより) 多文化招聘の時からその意思是だんだん強くなってきました。これからもっともっと交流したい！これからも頑張っ、また日本へ帰れますように動力します！

日本でいろんなこと体験して、経験も一杯作りました。日本人の友達だけじゃなくて、他の外国人の友達もできました。またいつか繰り返したいと思います。この経験は私のためだけじゃなくて、他の友達とか日本へ行きたい人とかどこかへ留学したい人のためにも伝えます。

本当に素晴らしい経験できて、色々学べました。感謝してます。

#### サンドラ

日本に着いた時皆それぞれの緊張間が絶対あります。私にとってはやっと小さい頃から夢は叶うと思えました。今まで日本は芸の人とかアニメしか知らないから実際の日本はすごく楽しみです。

1日目の多文化交流は自己紹介でした。その時外国人の参加者は日本語がとても上手でびっくりしました。色々な国から友達出来て嬉しいです。でも、バーベキューの前に私は忘れ物をしました。(略)

次の朝は皆まだ起きない時いっぱい写真を撮りました。そしてこけしの所へ行く前に神社の野菜売り場で大好きな梅干しを買いました。私はマレーシア人のダヤンクと同じ車に乗っているからいっぱい話しをしました。彼女は日本語は分からないから時々通訳者になりました。インドネシア語とマレーシアを混ぜて話しました。

こけしは自分の顔にそっくり書いていました。マランに帰った時私の夫はそのこけしを見て笑いました。その夜はインドネシア衣装をもって、皆着てあげました。ロンボックの服を着ているいざきさんはいつも服は落ちるから私たちの笑うのは止まらなかった。お腹が痛いぐらいでした。

最後の日は群馬の踊るを勉強しました。振り付けはちょっと難しかったです。でも、一緒にやると楽しかったです。多文化交流参加者は皆優しくて素直な人です。太田先生の暖かい家も一生忘れられないです。着物の体験とれいこさんのおいしい料理をいただいて嬉しかったです。

ホームステイもまたやりたいんです。(略) 3日間ホームステイは一人になると最初は怖いと思えました。でも意外とホストファミリーの根岸さんと直美さんはインドネシアの事色々聞かれました。3人の可愛い子供も一緒に遊びました。私は直美さんのいつもの所へ行きたいと言ったからガソリンスタンドや銀行や学校や郵便局などへ連れて行ってもらいました。店の人を話をかけて、日本に住んでみたいんです。

その後は一番行きたい所「秋葉原」へ行きました。アニメとかAKB48の関係がいっぱいあるからドキドキしてワクワクしました。スケジュールは忙しいですがゆかさんとこうめいさんとあやかさんは渋谷や原宿やディズニーストリートなど連れて行ってもらって感謝しています。いつも「急い

(サンドラ：左下より) で、急いで」と言われてから毎日走りました。日本は暑いですが毎日楽しかったです。

日本人の規則を守るさを感動しました。エスカレータの並べ方とか車の運転するとかすばらしいです。子供が出来たら、日本に習った事を教えたいです。他の人も日本の事を伝えたいです。今考えると私の日本語はまだ足りないです。だから何年先でも日本語と日本文化を勉強したいです。

#### エッミー

先月、私は日本へのチャンスをもらいました。それは5人で招聘として、多文化交流 In 群馬 2012 に参加するチャンスでした。びっくりしましたが、わくわくしながら、色々なことを準備しました。多文化交流やホームステイの準備などでした。多文化交流のプログラムの中に、Toko Indonesia という活動がありまして、どんなものが売ればいいのかをちょっと困りました。(略) 一番困ったことはお土産のことでした。どうスーツケースに入れるかを困りました。でも、その色々な問題がありまして、日本へ行くのは昔からの夢ですから、それをいつも楽しみました。

日本に着きました後、もっとわくわくしました。インドネシアに比べて、ぜんぜん違いましたから、色々な日本をずっと見たくになりました。カメラで色々な新しいものをたくさん撮りました。ビルや道や日本の家などが全部すばらしいと思えましたから、どれを撮ればいいのかわかりませんでした。でも、2、3日太田先生の家泊まりましてから、日本のことをだんだん慣れました。れいこさんが作ったおいしかった日本料理・布団に寝た体験・トイレの使い方・着物を着た体験などは全部私にとって、新しいことでした。本当にありがたいものでした。

学習森での多文化交流 In 群馬2012の活動も色々な経験もしました。色々な国からの友達に会いまして、一緒に日本文化やそれぞれの国の文化などを学びまして、とっても楽しかったです。彼らはみんな日本語が上手で、日本習慣にもう慣れまして、本当にびっくりしました。新しい友達になりまして、うれしかったです。多文化交流 In 群馬のプログラムの中に、私にとって、楽しかった学んだものは「そうらん！そうらん！」のダンス・ガラスに絵付けの体験・国際料理の交流と流し素麺でした。でも、一番珍しいものはシャワーコインだと思います。インドネシアで、その浴室のタイプがありませんから、最初使った時、ちょっと心配しましたが、使ってから、また使いたくなりました。(´・`) とっても楽しかったです。

私は日本に14日ぐらいいましたが、とても速いものでしたから2、3日に感じました。でも、その2週間の中に、いっぱい経験 (p6へ)

(エッミー：5pより)

しましをしまして、今までの勉強したものを具体的に  
見たり、やったりしましたことは本当にありがたい  
ものでした。日本に新しい友達を作って、いっぱい  
写真を撮って、いっぱい日本お土産を買って、たく  
さん新しいことを学んで、いつかその思い出をま  
た繰り返したいと思います。

ありがとうございました。

左からファリダー、リタ、エッミー、サンドラ、ハルメ



関千景さんとお友達の着物と着付けで「大和撫子」誕生！

リタ

日本は本当にすごく楽しかったですから、二週間は早すぎだと思ってます。私にとって日本に  
来られるのは夢みたくです。太田先生、玲子  
さん、チカゲさん、学習の森にあった皆さん、  
ホームステイファミリー、橋場さん、コメイさん  
のおかげで、日本にいる時は面白くて、楽しい  
経験ももらって、新しい文化を知って、色々な  
国から友達になって、おいしい料理いっぱい食  
べて、きれいなところへ行って、珍しいものい  
っぱい見て、私の行きたいところへ行って、し  
たいこともしました。

二週間は大変ですが本当に楽しい時間でした。  
色々なこと、本当にありがとうございました。  
マランにも日本にもまた会いましょう。



留学生との多文化交流 in ぐんまに合流。

## 「まなばる」の活動から ハロウィン大作戦！

さて！  
まなばるコーナー！！



MANAPAL(まなばる)

マナバルは、「地域」と「子どもたち」の健やかな成長を願う、小さな小さな「教育現場」。2009年10月にNPO法人国際比較文化研究所が設立した多目的教育施設です。

今回もまなばるのブログから：

### ハロウィン大作戦2012

JUN先生  
今年のハロウィンイベントも、雨との戦い?!(笑)でしたが、なんとか皆お店をジャックできて、ホッとしました。  
来年は雨の心配ない日が迎えられるといいなあw

昨年から始まった、まなばるの…というよりも安中の大イベント!(笑)

「お店 de トリック オア トリート」  
↑ こんな名前だったっけ?w

今年2回目なのですが、こちらからご協力をお願いに行く前に「今年はハロウィンやらないんですか?」と電話をいただいたお店もありました。

とても嬉しいことです😊  
そして今回初参加してくれた「まねきねこ」さん。

着ぐるみまで登場してくれて、子供たち大喜びでした。↑



↑ シティーマガネ「城田」さんにて

11月2日

おはようございます。JUN先生です。

話題沸騰中?!のマナパレンジャー(笑)子供たちにも大人気?みたいですよww

さあ...それでは、ハロウィン大作戦～小学生の部～いってみよお～!今年では低学年・高学年合わせて参加者100名となりました👏

最初のハロウィンイベントから参加してくれている子供たちをみると、みんな、すご〜〜く大人っぽくなっているよね❤️

ほらね↓みんな美人だよ♪



そして、年々アイデアを盛り込んでオリジナルティのある仮装ができる子供たちが増えてきました。



↑箱の中まで凝った演出でした!マトリックス君!♪

多文化交流参加希望者はメールで [mtharunac@xp.wind.jp](mailto:mtharunac@xp.wind.jp) もしくは FAX で 027-382-6393 までご連絡ください。申込の詳細をお知らせします。お問い合わせは 027-382-5998 へ



↑去年「Best Costume Award」を持って行ったHちゃんは今年パンダで登場!? かわいい👉



↑パニーちゃんはどこかの衣裳部屋からお借りしたものらしいw jun先生も着てみたいわ!←やめとけ!w愛情いっぱいだね❤️



↑このフワフワドレスは、古着やさんで安くゲットしたんだって。そんな手もあったか!スゴイ可愛いよね❤️小学生の部でも、お母さんの手作り衣装がたくさんみられました👉愛情いっぱいだね❤️

まなぼるのブログはまだまだ続くのですが、紙面でのご紹介は今回はここまでとさせていただきます。興味を持って下さった方は、ぜひブログをご覧ください。

### まなぼるの活動

こども英会話くらぶ、  
英語クラス (小3~小6)  
中学生向け (5教科)  
中学生向け (英語・数学)  
個別指導 (英語)・個別指導 (算数・数学)  
不登校・ひきこもり支援

## 多文化交流 in マラン2013 参加者募集中

### 募集要綱

日時: 2013年3月5日(火)~3月13日(水)  
申込期限: ~~12月20日~~ 2013年1月8日まで延期!  
参加費: 成田出発 13万7千円 (3月4日成田前泊を含む) 関空出発 15万4千円 福岡空港出発 14万5千円  
現地集合 (スラバヤ空港/マラン) は相談に応じます。  
参加費には旅行保険を含む (ビザ取得代・一部食費等は別)  
募集人員: 約20名。  
集合・解散: 成田空港/関空/福岡空港/現地集合  
参加資格: 18歳以上の健康な、日本語を話せる方。  
使用言語: 日本語  
企画: 特定非営利活動法人国際比較文化研究所  
責任者: 研究所長 太田敬雄  
コーディネーター: 菅ヶ谷マコ (マラン在住: 研究所副所長)

## ☆会費納入とご寄付の感謝とお願い☆

会員の皆様はじめ、ご協力と呼びかけさせていただいた多くの方々には、思いをはるかに超えたサポートをいただき心から感謝しております。今年の認定NPO法人格取得は夢に終わりましたが、二年後の取得を目指して着実に準備と努力を続けて参ります。そのためにはお一人でも多くの方に国際比較文化研究所の活動を知っていただき、支えていただくよう努力を続けなくてはなりません。皆様のご協力をお願いします。

会費納入のご請求及び会費とご寄付の報告が遅れておりますことをお詫び申し上げます。

年会費は個人が2000円です。いつものように会費をすでに頂戴している方にも振込用紙を同封させていただきますが、これはご寄付下さる方のため、また新入会員をお誘いいただくための振込用紙です。**決してご寄付を強要するものではありません。**

### 会費・寄付 (2012. 10. 1~12. 25)

<敬称略・順不同>

<新たにご入会下さった方>水嶋和子ご入会ありがとうございます。より良いNPOとなれるようみなさまのお知恵とお力を貸してください。

<会費>杉浦隆一、横地徳広 (12~16)、吉村耕治、須山史枝、K. ミックメーヒル、池田章二 (13)、長谷川路子、小山直美、小林慎樹 (11~15)、森泉寿義雄、間庭有美子、藤平久代 (13)、水木健一 (13)。

カッコ内はお支払いただいた会費の年度、それ以外のカッコの無い方は12年度分です。

<インドネシア招聘>小林久子、鈴木布美子、ありがとうございました。

<まなばる・復興支援>村井田和夫、横地徳広、鈴木布美子、まなばるも頑張っています。大勢の子どもたちがウキウキしながら通ってきます。中学生が楽しそうに+真剣に勉強しています。

<一般寄付>水嶋和子、村井田和夫、横地徳広、羽生基雄、飛松和子、須山史枝、宇留田貞子、池田章二、長谷川貴尚、長谷川路子、小山直美、森泉寿義雄 (x2)、太田琢雄 (x2)、福田則行 (x2)、狩野真由美 (x3)、野口紀子 (x2)、岡部喜久子、岡部康之、太田敬雄 (x2)、鈴木布美子、手塚恵、加納武、金井美由紀、斎藤正典。ありがとうございます。皆様に支えられている幸せをしみじみと感じています。

**編集後記:** ◇新しい形の多文化交流として、1月21日から28日にかけて、釜山でいつもお世話になっている釜山外国語大学日本語学科のイム先生と学生数名が東京で数日過ごしたあと、群馬にやってきます。いつもの安中市の「学習の森」でミニ多文化交流を実施します。

◇また、2月にはこれまでの多文化交流の同窓会を企画しています。こちらはまだ詳細は決まっていませんがきっと懐かしい面々が揃う事でしょう。どちらも今から楽しみです！

◇認定NPOに向けてのこれまでの活動、特に昨年度ご寄付下さった方々に早くご報告をと気持ちは焦るばかりでしたが、しっかりと方向を定めてと用意をしているうちに、ニューズレターの発行がすっかり遅くなってしまいました。お詫び申し上げます。

◇多文化交流 in マラン2013の募集期間を延長しました。実は参加者一人一人に、ブラウイジャヤ大学の学生がパートナーとしてつきます。そのパートナー希望者が大変多く、こちらからの参加者が一人でも多い方がパートナーになって貰える人数も増えるわけです。毎年、希望者をマランのスタッフが面接して選抜しています。やたらに大人数にはしたくない。けれども一人でも多くのブラウイジャヤの日本語専攻の学生達にチャンスを与えたい。悩ましいところですが、あと10名近くは増えても大丈夫ということで、募集期間を延長しました。一人でも多くの方が参加して下さいようお願いします。

◇11月初めには発行する予定だったニューズレター、遅くなりましたが何とか年内に発送できます。ただしお手元に届くのは年明けになるのでしょうか。2013年も研究所をよろしくお願いします。

◇インフルエンザやノロウィルスが蔓延しているようです。皆様ご用心ください。

◇2013年が皆様にとりまして素晴らしい年となることをお祈りしています。(T)

**Newsletter 発行: 特定非営利活動法人国際比較文化研究所**

事務所: 〒379-0124 群馬県安中市鷲宮3413-3

電話: 027-382-5998 FAX: 027-382-6393

e-mail: [mtharunac@xp.wind.jp](mailto:mtharunac@xp.wind.jp)

HP: <http://www8.wind.ne.jp/mthc>

MANAPAL ブログ: <http://manapal.gunmablog.net/e80854.html>

郵便振込口座番号: 00510-0-61974 名称: 国際比較文化研究所